

明日の大地

北海道新篠津高等養護学校

学校だより

令和3年度 第2号 12月24日発行

Tel 0126-58-3280

HP <http://www.shinko.hokkaido-c.ed.jp>

進路指導部から

進路指導部長 木元 稔 敦

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて、1学年と2学年の現場実習は予定していた時期を延期して実施となりました。実習先によっては、生徒のために準備していた畑作業などの仕事を再調整することになるのですが、多くの実習先で快く実習時期の変更を受け入れてくださいました。新篠津村や岩見沢市、当別町の企業、事業所様の御理解、御協力により、充実した現場実習を実施することができ、心より感謝いたします。また、実習期間中、保護者の皆様には、実習に臨む生徒たちを励まし支えていただき、本当にありがとうございました。

先日の現場実習報告会では、実習での成果と課題を整理して大勢の前で生徒たちの発表がありました。自分自身の行動などを振り返り、新たな目標を意識して取り組むことは労力が必要であり、さらに、改善に向けた取り組みを意識的に継続することは生徒に限らず、簡単なことではありません。楽しい活動などがあると気持ちが流されてしまい、すぐ忘れてしまうことは、誰もが経験したことがあるはずです。周囲の人の力を借りながらも、忘れていたり思い出したりを繰り返し、目標に向き合うことを続けることで小さな成長につながり、少しずつ子どもから大人への「芽生え」を感じられるようになります。例年、3年現場実習後の生徒には、実習前にはなかった「大人びた部分」を感じる 경우가多くあります。

現場実習のあと、宿泊行事や学校祭があり、冬休み前には「進路希望調査」が配布され、再び卒業後の進路に向けた目標意識を高める時期、思い出す時期になります。御家庭との連携を深めながら、今後とも御支援、御協力をくださりますようよろしくお願いいたします。

現場実習

* 第1学年 *

新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言の延長のため、約1か月程の実施の延期、そして開始と同時に生徒達を襲う強風と雨、寒さ…しかし厳しい条件下でも通い続けた生徒達、最後は天候にも恵まれ、程よい疲労感と充実感にあふれる表情が印象的でした。

今回の実習では延期の混乱にも関わらず村内外の15の事業所をはじめ、バス会社や弁当業者、保護者の皆様からたくさんのお力添えをいただきました。事業所の方からの「助かるよ。」の声にたくさん支えられ、そして解決すべき個々の課題も見出されました。このような御時勢だからこそ、「人と仕事があつての実習」であることを改めて感じました。有意義な現場実習でした。

進路指導部 成松 智也



* 第2学年 *



進路指導部 鈴木 貴志

10月4日から10月15日に2学年の現場実習が行われました。新型コロナウイルス感染症拡大に係わる緊急事態宣言が延長され、急遽日程を変更した中での実習でした。無事実習が行うことができたのも、実習を受け入れてくださった事業所の皆様や保護者の皆様の御理解、御協力があつてのことです。改めて感謝いたします。2学年の実習は、引率実習と単独実習に分かれての実習でした。特に単独実習は自宅から公共交通機関を利用して1人での実習でした。途中くじけて実習を休んでいないか心配していましたが、生徒たちは、学習の成果を発揮して2週間頑張りきることができました。実習を終えて戻ってきた生

徒たちの表情はとても遅しく感じました。

今回の経験と反省を来年度の進路選択に生かしてほしいと思います。

* 第3学年 *

進路指導部 西島 智子

本学年は、例年より事業所等の見学や体験ができる機会が大変少ない中で、進路先希望を決定しなければなりません。また、実習時期も感染症における緊急事態宣言発令期間と重なりましたが、前提実習ということもあり、実習先、保護者の理解をいただき、おおよそ予定通りに実施し、感染者を出すことなく終わることができました。生徒たちは、この実習で自分の課題に直面し、様々な経験値を増やすことができました。コロナ禍で、行動に制限がかかり、学習機会を失うことが多かったからこそ、「実習できることがありがたいです。」と言った生徒がいたり、実習中「働くことが楽しい。」という声が多く聞くことができました。その感動を忘れずに、卒業までの日々を惜しむことなく自分磨きができるよう期待しています。



新高映画祭 学年発表

1 学年

担当 手代木 直子

「BA RA BA RA」

今年の1学年のテーマは「ばらばら」。

『「ばらばら」でいいんだ。ひとつになれなくてもいい。いろいろな仲間がいるんだから。まずは、お互いを認め合おう。わかり合えないことをわかり合おう。』

映画の中に出てくるセリフです。まさしく、このセリフを形にしたものが1学年の作品です。お互いを認め合いながら一つのことをやり遂げようとする、日常生活をもとにしたストーリーとなっています。これまで一緒に活動する機会がなかった仲間との活動を通して、この「BARABARA」を感じることもあったようです。

『この出会いを大切にし、これから日々成長していこう。ぶつかり、悩み、話し合いながら日々を重ねていこう。その先に、未来が、成長がある。』

この経験が、1学年のみんなにとって、これからの糧となり、自信になりますように…。



2 学年

担当 佐藤 吉樹

「集団演技」(2学年)



昨年は、新篠津版忠臣蔵を演じ過去の歴史を学びつつ、コロナとの戦いに負けない強い精神と感染対策をしながらどんな生活をすれば良いのかを皆で考えました。今年度は、装いも新たに雰囲気を変えて、「集団演技」という踊りを中心とした演舞に取り組みました。

①ゴース ②ストンプ ③旗を使った演技と3部構成となっています。①ゴースは大きな布を皆で持ち音楽に合わせて舞う、②ストンプはホウキなどの掃除道具を持ちリズムカルな曲に身体を寄せる、③旗は、列や円などの隊列を組んで旗を大きく回して表現するという内容です。どのグループも真剣に取り組んでいて、

練習を重ねるごとに息が合ってきました。今回の集団演技を通してさらにクラス同士のつながりが深くなり、また個々の成長が見られました。

3 学 年

「新篠津村開拓史」

昨年度は、私たちの体の細胞レベルで起こる現象を映像化しましたが、今年度は趣向を変え、本校が次年度 30 周年を迎えることをきっかけに、私たちが学ぶ新篠津村の開拓の歴史をなぞりながら、同時に学校が村とともにどう発展して今があるのかを理解していくストーリーです。

ストーリーテラー的立場の「ナレーター・解説」は見どころの一つです。その他、30 周年事業の中身を考える教師たちや、村の歴史を調べるきっかけを生んだ学級での演技。村のゆるキャラおこめちゃんの思いにフォーカスしたペープサート劇や、過去の新篠津を知る人物へのインタビューなど、多くのショートストーリーを連ね、ラストはおこめちゃんを囲んでの新篠津百年音頭で映画は大団円を迎えます。これまで様々お世話になった「新篠津」をたっぷり盛り込んで作品にしました。お楽しみに！

担当 三 田 村 祐 二



全道障害者技能競技大会

担当 小 林 克 知



10 月 3 日（土）、札幌市にあるポリテクセンター北海道にてアビリンピック北海道大会が開催されました。本校から 2 年木工科の佐々木猛さんが木工部門に出場しました。今大会に向けて放課後や休日の練習を繰り返して行いました。当日は、木工部門に出場者 1 名で審査員 3 名の熱い視線に耐えながら、また大会という緊張感にも負けずに、練習の成果をすべて発揮し、見事金賞を手にすることができました。これまで応援して下さいました方々へ感謝いたします。来年、幕張メッセで行われるアビリンピック全国大会の木工部門北海道代表候補になりました。次の目標ができ、これまでに習得したことを基に更に努力を重ねてくれることを期待します。

10 月 3 日（土）、札幌市にあるポリテクセンター北海道にてアビリンピック北海道大会が開催されました。本校から 2 年木工科の佐々木猛さんが木工部門に出場しました。今大会に向けて放課後や休日の練習を繰り返して行いました。当日は、木工部門に出場者 1 名で審査員 3 名の熱い視線に耐えながら、また大会という緊張感にも負けずに、練習の成果をすべて発揮し、見事金賞を手にすることができました。これまで応援して下さいました方々へ感謝いたします。来年、幕張メッセで行われるアビリンピック全国大会の木工部門北海道代表候補になりました。次の目標ができ、これまでに習得したことを基に更に努力を重ねてくれることを期待します。

オンラインオープンスクール

担当 山 田 勇 気

12/8、9、15 の 3 日に分けてオンラインオープンスクール第二期が行われました。オンラインで各学科の作業の内容を生徒自身が中学生に説明する形で行われ、第二期は 1、2 年生を対象に実施し、延べ人数 200 名を超える中学生が参加してくれました。それぞれ学科の特性を生かした作業内容の説明の後、中学生からは「寄宿舍でスマホは使えるのか?」「どんな部活があるのか?」「女子の制服にスラックスはあるか?」など、その場で質問もあり、先輩が経験をもとに答え、盛り上がりを見せました。



2 学年 宿泊研修

担当 近 藤 和 也



『学び・体験・仲間』宿泊研修

新型コロナウイルス感染症のため延期になっていましたが、11 月 4 日&5 日の一泊二日で実施することができた宿泊研修。

初日午前には北海道リハビリデーでの施設見学を行い、積極的に自分たちの進路に対する質問を行うなど、自分自身の将来に対して前向きに考える時間となりました。午後はどうぎんカーリングスタジアムでカーリング体験。初カーリングの生徒が多かったですが、やはりオリンピック競技でもあり、やる気満々の生徒たち。すってんころりんしながらも、氷上のチェスを存分に楽しむことができました。そして、保養センター駒岡で宿泊。どの部屋を見ても、仲間との時

間を楽しむ生徒の笑顔であふれていました。

3 学年 見学旅行

担当 下川原 章子

今年度の見学旅行は、10月26日から29日の三泊四日、網走、知床、阿寒、帯広へ行きました。当初6月に予定しておりましたが、感染状況を鑑み10月へと変更になり、宿泊学習にも行くことができなかった3学年にとっては念願叶った旅行でした。

寒さや雨なども心配されましたが、全日程を良い天候の中過ごすことができました。生徒たちが見学先で興味深げに展示物を眺め、観光船からの景色を楽しみ、宿で仲間とリラックスして過ごす様子を見てみると、実施できて良かったと改めて感じました。

生徒たちがこの思い出を学校生活の良き思い出として、今後の人生を進んでいくことを願っています。



令和3年度第1回学校運営協議会 副校長 佐伯正文



本校は昨年度から「学校運営協議会」を導入し、コミュニティ・スクールとなりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、年間3回の開催を予定していましたが「学校運営協議会」の開催が、昨年度は1回のみとなりました。今年度も緊急事態宣言があり、第1回の開催が延期されましたが、11月24日(水)にようやく開催することができました。今年度の学校運営方針や教育活動、寄宿舎生活などについて説明した後、委員の皆様から御意見などをいただきました。

議事録及び通信は、本校ホームページにありますので内容を御確認ください

図書室より

担当 坂下 住恵

ご協力ありがとうございました！！

図書室に置いてほしい本、生徒に読んでほしい本について、アンケートにご回答いただきありがとうございました。

保護者の皆様からお勧めいただいた『たのしい、わかりやすい料理の本』『ティーンズ・ボディーブック』、生徒達からリクエストのあった長編小説、バイク、ヘアアレンジ、フォトブックなど、いろいろなジャンルの本を購入しました。

活字にこだわらず、まず本に親んでもらえたらと思います。

ぜひ、たくさんの生徒達に読んでもらいたいです。



P T A 厚生部より

校章&名札リサイクルについてのお願い

P T A 厚生部の活動として、校章と名札のリサイクルを行っております。校章か名札を提供していただける保護者の方は、卒業式終了後に学級担任、または厚生部担当の土井・横田(江)までお渡しください。御協力よろしく願いいたします。



《編集後記》

今年度も、昨年度に続き予定通りの教育活動が行えない一年でしたが、できるだけ早く新型コロナウイルスの感染が治まることを祈りながら、まずは卒業式を通常に近い形で行い、送り出すことができますよう学校全体が一丸となって邁進していきます。

来年は素晴らしい1年になりますよう、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。